

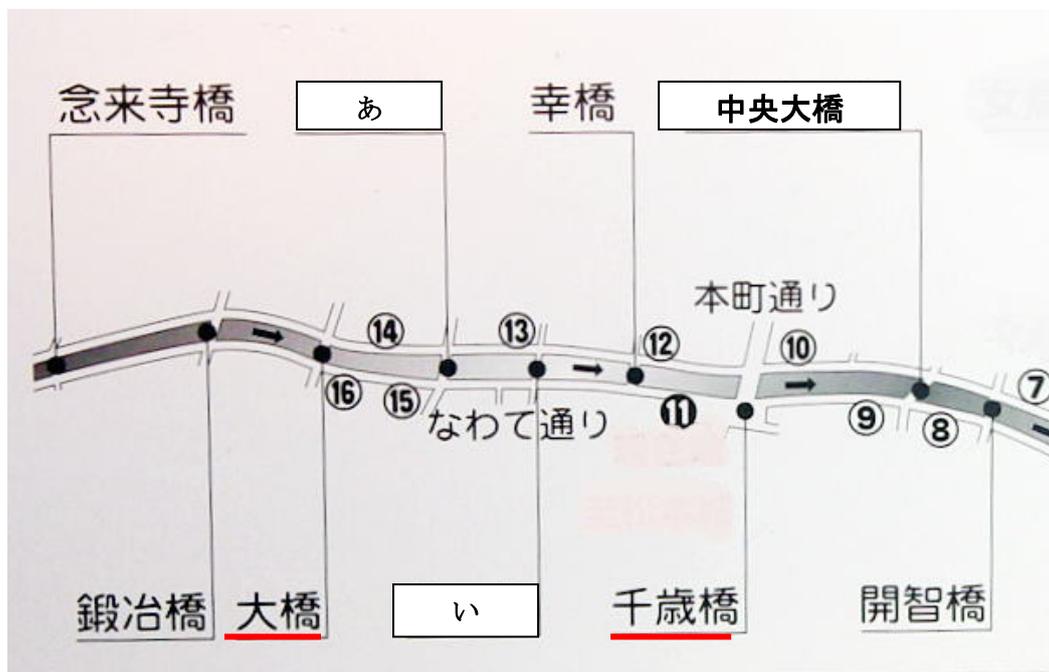
7-4	女鳥羽川・縄手・千歳橋の変遷
-----	-----------------------

今回は、三の丸の南側についてその変遷についてお尋ねします。

1 女鳥羽川は武田氏の土木技術をもって松本城の南側に流路を変更されたというのが最近の研究で明らかにされていますが、「女鳥羽川」という呼び名は3代水野忠直時代以降の松本城下絵図で定着します。それ以前は庶民の間では何と呼ばれていたでしょう。

①めとうだ川 「御堂田川」が庶民の間では「めどうだ川」といわれるようになった。

2 女鳥羽川にはいくつもの橋がかけられています。千歳橋から大橋の間に3つの橋がありますがそのうち江戸時代からある2つの橋について現在の橋名を教えてください。



あ (②一ツ橋) い (⑤中の橋)

江戸時代も現「一ツ橋」はやはり「一ツ橋」と呼ばれ、現「中の橋」は江戸時代には「新小路橋」と呼ばれていた。

3 現在の千歳橋は明治11年（着工は明治9年）に石橋に架け替えられ橋の名称も千歳橋と名付けられました。木橋であった江戸時代にはこの橋を何と呼んでいたのでしょうか。

④大手橋 大手門に女鳥羽川を渡って入った。松本城の表すなわち大手（追手と書くところもある）の橋だから、大手橋と呼ばれた。

4 大橋は江戸時代には幅2間2尺、長さ8間半の木橋でした。明治17年に県の直営工事で石橋にしましたが、明治29年取り壊し、木の橋に架け替えました。その理由は

①大洪水の濁流のため橋の中央が陥没し通行が危険になった。

明治17年8月石橋が県によってかけられたが、明治29年7月の大洪水で橋の面の中央がくぼみ危険になったので取り壊し、木橋に架け替えた。このとき取り崩した石材の一部がいたんでいた千歳橋の修復に使われた。

5 縄手は直線の土手道部分をいいます。どこからどこまでを縄手というのでしょうか。



(天保六年松本南北深志絵図写 松本城管理事務所蔵)

③A—D (大橋) まで ちなみにCからD (一ツ橋から大橋) までを東縄手という。

6 明治13年明治天皇巡幸の際写真の御幸橋 (矢印A) が造られ明治天皇が渡り初めをしました。この橋の石材はどこから来たものでしょう。

②大手門の門台の石を再利用した。

明治4年の暮れから大手門等城の施設が壊され競売に付された。大手門は門台だけを残して破却された。その門台の石を再利用したのが明治9年着工、明治11年完成の千歳橋であり、本町5丁目の袖留橋と四柱神社の御幸橋である。

7 問6の写真は「明治十三年御巡幸松本御通図」ですが「B」「C」の建物は何でしょう。

B (②松本警察署) C (④四柱神社)

松本市民にとって「四柱神社」は「しんとう」「しんと」と呼ばれて親しまれている。

秋の祭礼も「しんと祭」である。南総堀はまず大手門付近から埋め立てられた。

明治12年神道分局と四柱神社が移ってきた。明治政府は明治8年伊勢神宮を国家神道の中心として神道事務局を作り、各府県にはその宗社としての分局を置いた。松本には明治8年宮村町の廃仏毀釈で廃寺となっていた長松院に神道事務局と四柱の大神が祀ら

れた。明治12年に現在地に移ってきたのである。四柱の大神とは「天^{よはしら}御中主神」「高皇産^{あめのみなかぬしのかみ}霊神^{たかみむ}」「神皇産^{かみぬすびのかみ}霊神^{あまてらすのおおみかみ}」「天照大神」である。

8 写真は千歳橋の大名町側の東隅にある大正8年(1922)に設置された石柱です。大変重要な意味を持つ標柱ですが何でしょう。

③松本市道路元標

道路元標——路線の起点・終点または通過地を表示する標識。

※参考にした文献「旧松本市史」・「松本縄手繁盛記」「図説国宝松本城」